

## JFC ネットワーク・スタディツアー2015

2015年7月31日(金)～5日(水)まで5泊6日でスタディツアーを開催しました。今年の参加者は16名で、マニラ・ダバオコースとも参加されました。

### ◆スケジュール◆

- 7月31日(金) PM マニラ集合、国内線でダバオへ移動
- 8月1日(土) AM RGS-COW(※)事務所訪問、オリエンテーション  
PM ワークショップ(日本国籍とJFC——日本での就労と人権——)
- 8月2日(日) AM JFC母子の家庭訪問  
PM ホームステイ先へ移動、ホームステイ
- 8月3日(月) ダバオ市サマール島でアイランドホッピング
- 8月4日(火) AM 国内線でマニラへ移動  
PM JFC人身取引被害の情報交換会  
(※バティス&カトリック教会移住者委員会)
- 8月5日(水) AM マニラで解散  
(※)RGS-COW(Religious of the Good Shepherd-Center for Overseas) COWはフィリピン人移住労働者の帰国サポートや安易な海外就労に対する啓発活動、人身売買防止活動などを行う団体。JFCネットワークは2007年からCOWで相談を受けたケースも扱っている。  
(※)バティス(Batis Center for Women) 移住労働者として働いていた女性たちの支援。  
(※)カトリック教会移住者委員会  
(Episcopal commission for pastoral care for migration and itinerant people (ECMI))

### 参加者たちからの感想をご紹介します♪

#### ◆最も印象に残っているプログラム&その理由

##### ★感想

#### ◆プログラム：ホームステイ

(理由) 家族が力を合わせ、明るく寄り添って生きている姿がとても強く残っています。貧困の中であってそしてJFCの抱える問題があったとしても愛情あふれるフィリピンの家族に守られ、共に暮らしていることは、決して孤立化することなく、人間性が豊かな環境で子どもたちが成長していると感じました。そしてそのことは、返って豊かなのではないかと考えさせられました。現実の日本は、家族の崩壊があり、JFCの父親との離別がありますが、私がホームステイをさせていただいたフィリピン側のご家族にはありませんでした。

★感想：初めてのフィリピンでした。そして初めてのJFCの現実に触れました。つらく厳しい現実に向かって生きているフィリピンの方々でした。しかしその中であつても力強く明るく元気にひた向きに前を向いて進もうとする、彼らの生き様がとても印象的でした。そして彼らを支えようされている弁護士の先生方、JFCネットワークのかたがたをはじめ、多くの方々の献身的な支えも目の当たりして大きな学びとなっています。人は、支え合い絆を大切にす

ると思います。この絆こそが、平和で公正な社会を築くために必要なことと思います。日本とフィリピンの絆を、民間レベルで構築しようとするJFCネットワークを支援したいと思います。(岡戸良子さん/清泉女子大学ボランティアセンター長)

◆プログラム：ホームステイ

(理由) ホームステイや家庭訪問で、JFC母子たちと長時間を共に過ごすことで、信頼関係が深まり、たくさんのお話を聞かせていただけたように思います。特にホームステイ先で私と年の近いJFCの女の子が将来の夢を熱く語ってくれたことが印象深いです。その前向きで明るい姿に元気ももらいました。日本に来てその熱意を失わないでほしいなと思うと、JFC母子たちのサポートをしてあげたいという気持ちが一層強くなりました。

また、自宅へ伺わせて頂くことで、JFC母子たちがどんな暮らしをしているのか具体的に知ることが出来ました。私は合わせて3軒のお宅に伺わせていただきましたが、家の造りや立地が一軒一軒全く異なっており、貧困のレベルにも色々あることを自分の目で確認することが出来ました。

★感想：このスタディツアーでは、初めての経験をたくさんさせていただき、多くのことを学びました。毎日が刺激を受ける事ばかりで、このツアーを通して成長することができたと実感しています。また、様々なバックグラウンドを持つ方々とお会いすることができ、視野が広がりました。学生が私一人だったのでとても不安な気持ちで行ったのですが、皆さんが優しく声をかけて下さり、フィリピンツアーを楽しむことが出来ました。参加して良かったと感じています。またイベントやインターンなどにも参加させて頂きたいです。今後ともどうかよろしくお願い致します。(尾近令奈さん/学生)

◆プログラム：バティスミーティングでの人身取引被害家族による証言

(理由) 直接母親やJFCから人身取引の被害体験、業者の手口や日本の警察の対応、日本のシェルターにいたときの窮屈さなどを聞くことができてよかった。弁護団の弁護士さんたちからの見解も聞くことが出来て参考になった。ミーティング後に子どもたちと食事をする事ができて、子どもたちも楽しそうだったのでよかった。

★感想：私は日本で、虐待や性暴力を背景に孤立した少女を支える活動を行っています。その中で、JFCの子どもたちと出会うことは少なくありません。日本国籍を持つJFCの少女が、家庭崩壊や、地域・学校での孤立などを背景に、非行や犯罪に巻き込まれているケースがあります。たとえば、日本語がうまく話せず学校でいじめに遭ったり、仕事で忙しいフィリピン人の母親と関係がうまくいなくなり荒れた生活を送る子、余裕をなくした母親が子どもを虐待しているケースもあります。そうした背景から、家出や売春を繰り返す少女もいます。

子どもたちから話を聞くと、「母親は若



い頃エンタテイナーとして日本に来た」という話が出てくることがあります。しかし、それでは生活が成り立たなくなって夜の仕事を始めたという母親、子どもには仕事内容を伝えていないけれど風俗店で働いていたという母親もいます。母親たちも精神的に不安定な状態にあり、子どもにきつくあたったり、ネグレクトしたりしている家庭もあります。

今回のツアーに参加して、日本でかかわっている JFC の背景を、前より想像できるようになったと思います。日本で人身取引の被害にあった母親・JFC から直接話を聞いたことはとても大きく、業者の手口や日本の警察の対応、日本のシェルターにいたときの窮屈さなどを聞くことができよかったです。国籍にかかわらず、被害に遭った親子が、権利を脅かされることなく安心して暮らせる場所や支援が必要だと改めて考えさせられました。

現地で移住者支援をしているシスターのプレゼンでも、フィリピン人の母親や JFC を日本に送り、劣悪な環境の中で搾取的な労働をさせる手口は、私が日々かかわっている日本の少女たちを売春や違法労働に取り込む業者やスカウトの手口と類似する部分が多いことがわかりました。一緒にツアーに参加されていた弁護士たちの見解も聞くことができ、業者のやり方や日本人の関与の仕方をより具体的に知ることができました。

また、今回 JFC と母親たちに、日本における JFC を犯罪や売春に取り込む仕組みや危険についてお話する時間をいただきました。日本に憧れを抱いている母子も少なくないと思いますが、来日前に、子どもたちにかかわる危険な現状について知り、少しでも考えたり、何かあったときに思い出したりしてもらえることを願ってお話ししました。

来日し孤立した JFC に「日本語に自信がなくても大丈夫」「誰でも簡単にできる仕事」と声をかけ、家に居づらいという子には寮（1部屋に8人くらいが詰め込まれることもある）を用意したり、勉強を教えるふりをして近づいてくる売春斡旋業者もあります。支援につながる前に、危険に取り込む大人が声をかけています。

母親たちには、「もし日本に来ることがあっても、子どもたちと一緒に食事をする。食事の時間だけでもいいから、子どもとの会話を大切にしてほしい」とお話ししました。フィリピンでは、親戚や地域の人とのかかわりの中で生活している母子が多いと思いますが、日本に来てからも関係性の貧困に陥らず、困ったときに頼れる人とのつながりをもって生活していくためのサポートが必要だと思います。私はこれからも、出会う子どもたちと困難をともに考えていきたいです。（仁藤夢乃さん／一般社団法人 Colabo 代表）

◆プログラム:ダバオの海外労働者センター (COW) によるJFC母子対象のワークショップ

(理由) 多くのJFC母子が、リスクを半ば承知の上でも日本に移住したいと思っていることをつぶさに感じる機会となりました。また、JFC母子の日本への渡航を仲介している団体が、ダバオにも広く深く活動領域を広げていることを改めて知りました。

★感想: メリハリの利いたプログラムのなかで、新しい気付きや多くの



出合いを体感することができました。なかでも印象深いのは、ダバオの海外労働者センター（COW）による JFC 母子対象のワークショップでした。日本における JFC 母子をめぐる人身取引につながる搾取や子どもの教育上の困難、法的側面について、ツアーの参加者が代わる代わる情報提供し、「不安全な渡航」に警鐘を鳴らしました。私も報告したひとりでした。

しかし、女性たちは日本でのリスクに耳を傾けつつも、子どもを連れて渡日したいという気持ちに変わりはない様子でした。ダバオやマニラの仲介団体を通じて日本での就労先がすでに「内定」し、不利な条件であっても早期渡航を望んでいる女性もいました。ダバオでの毎日は経済的にそれほど切羽詰まった状態なのかと想いをめぐらせたものです。

国籍法の改正が JFC 母子の権利回復への道筋をつけました。しかし、その権利行使のプロセスで人権侵害が生じています。ツアーが終わったいま、この悪矛盾に日本社会はどう対応すべきなのか考え続けています。  
(藤本伸樹さん／ヒューライツ大阪)

◆プログラム：8月4日午後のプログラム。

(理由)岐阜事件の被害者から状況を直接きくことができ大変興味深かった。これまで聞いていた話を共通する点があるとともに、こちらが考えていた話と違っていた点などもあり、今後の対応について考えさせられた。

★弁護士としては、JFCの親子やフィリピン人の依頼者に出会うのは事件を通してがほとんどであって、つまりもう事件化したときに会うことになる。

どうしてこれほどまでに日本で生活することにこだわるのか解せぬところがあったり、今回のテーマであるブローカーを介しての日本への渡航の流れを聞いてもうまく状況が理解できていなかったりというところがあった。今回参加したのは、これまで自分が見聞きしてきた事件の文化的・社会的・経済的背景を知り、またフィリピンから日本への人の流れの構造を知り、よりきちんとしたアドバイスができるようにという動機があったが、その点については、大変満足行く学びができたと思う。ホームステイ先の母親が、口では、お父さんは浮気ばかりなどといっている、家にはお父さん単独で、あるいはお母さんと子どもと3人で撮られた数々の写真が誇らしげに飾ってあり、子どもも高い授業料を払っても日本語学校に通っている。人への想い、人とのつながりが確かにある、と感じた一方で、経済的には厳しく、生活面で日本にあこがれを抱くのは当然であろうとも思わされた。もちろん、1つ1つの親子・家庭に様々な事情があり、全てを一般化することはできないけれども、今回家庭訪問を通して、ワークショップを通して、学んできたことは今後の弁護士としての活動に間違いなく生きていくと思うし、活かしていき、より依頼者に寄り添い個々の事情をくんであげられる支援活動をしていきたいと思った。  
(皆川涼子さん／弁護士)

◆プログラム：アイランドホッピング

(理由) 長期滞在期間を含めて、今回が8度目のフィリピン渡航でしたが、これまでフィリピンの負の面ばかり見る事が多く、美しい自然があることを知りながら、それを実感を持って人に伝えることができず、自分自身も偏った見方をしているのではないかと感じていました。その点で、心から「きれい!」「楽しい!」と思える経験をしたことは、とても有意義だったと思いますし、JFCにはフィリピンのルーツをもっと誇りに思ってもらえたらと思いました。また、参加メンバーがそれぞれ経験豊かな方だったので、この日に比較的ゆっくりと、いろんな方のお話を聞くことができよかったです。

★感想：COWのクライアントの話からは、JFCが日本に行くことが、予想以上に現実的な選択肢になっていることを感じました。藤本伸樹さんの人身取引被害の話や仁藤夢乃さんのJKビジネスの話には、クライアントも衝撃を受けていたようでしたが、それでも「日本に行きたい」という気持ちには変わりはないようでした。

最終日のプログラムには私は参加できませんでしたが、そこでバティスの代表の方が「JFCはほかの外国ではなくて、日本人だから日本に行きたいのだ」ということを話していたと聞き、クライアントの日本に対する深い思いをあらためて感じました。今後は日本に来たJFCへのサポートがますます重要になってくるのかもしれませんが。（野口和恵さん／ライター）

#### ◆プログラム

(理由)もっとも印象に残っている「プログラム」というと難しいです。ホームビジットやホームステイ先、そしてマニラのレスティ神父などでの人身取引被害家族などによる具体的な体験談の総体が深く印象に残っていると言った方がよいでしょう。それぞれ来日に至る家庭の事情や日本での経験などが異なっており、JFCをめぐる問題が一括りにできないということを感じました。もちろんこれら以外にもCOWでのオリエンテーションの際に垣間見れた、これから再来日したいと考えているJFC母子たちの本音などに触れられたことも貴重な経験だと思います。ただ、どれか一つのプログラムがもっとも印象的だというよりも、人身取引問題の様々な側面について触れたことが貴重な経験であり、それによって知ることのできた問題の複雑さが印象深かったです。

★感想：エクスカージョンは大正解だったと思います。息抜き・気分転換・参加者同士の交流・ロケーションを変えてのシェアリングなど、あらゆる意味でプログラムに取り入れて良かったと感じました。これは各自が個別に予習をしておくべき問題かもしれませんが、フィリピンという国自体について、特にJFCとは関係のない貧困問題や海外出稼ぎの問題、物価（特に子育ての費用や生活費）そして就職率などについてもっとしっかり勉強してからツアーに参加した方が良かったと感じました。恐らくホームビジットおよびホームステイ先のお母さんが共にミンダナオ大学という「頭の良い」大学出身者だったことが影響したのだと思いますが、フィリピン人女性に日本行きを選択させる切実な動機が分かったようであり、分かりきれなかったような気もします。（佐藤兼永さん／フォトジャーナリスト）

#### ◆プログラム：家庭訪問とホームステイ

(理由)実際に「暮らしている」家と環境で、寝食を共にしてくれた家庭訪問、特にホームステイというプログラムです。シングルマザーの彼女は「妹二人は埼玉で幸せに暮らしているのよ。私だけ、だまされたの…」と笑う。「おなべよ」と同居している彼女とJFCと3人で一つのベッドで寝ているそばをすり抜けてトイレに向かう。一緒に泊まった弁護士さんに一生懸命相談しようとする。どうしても日本に行きたいと、日本語を勉強しているJFCの日本語テキストと一緒に解いた。そんな数々こそ貴重で宝物のような時間でした。

★感想：JFCと母親が抱えてきた、いろいろな事情を、母親が生まれ育ったフィリピンの家で話したり、考えたりできたことがまずとにかく良かったです。手触りや皮膚感覚のようなものは、まったく十分ではないけれど、それでも少し、ほんの少しでも自分の身の内に入れたかな。とにかくホームステイさせてくれるのが凄い。「おなべ」さんもニューハーフのご家族もみんなで同居して一緒にわいわい暮らしているのがいいなあ。そして認知なく、行方不明

になる日本人の父への、ひいては日本へのJFCの憧れは、それが強い「希望」でもあるのだと思います。

JFCがフィリピンで日本語を学び、読み書きは優秀でも、「娘は（日本に行ったことがないから）実際の内容・意味が分からないの」と、母親は少し悲しげに訴えます。

最終日、Batis Centerで、実際に人身売買の被害にあった方々の話を聴かせていただきました。大変な思いで話してくださったと思います。そこで尚子さんは、マリガヤハウスのクライアントは、悪徳エージェントのターゲットにされてしまうこともあり、現状では忸怩たる思いを抱くこともあるけれど、それでも「彼女たちを止めることはできない」と話してくれました。相談に乗って、話を聴いて、寄り添って、法的な支援にもつなげて、それでもうまくいかない現状があり、それはまるで「砂の器」のようかもしれません。そういう「揺らぎ」を持ちつつそばに居続ける直子さんはじめ、JFCネットワークのスタッフの方々の根っこのようなものを見せていただけたと思っています。 (稲塚由美子さん/ミステリー評論家)

◆プログラム：家庭訪問とホームステイ

(理由) 実際のご体験をお伺いすることにより、一人一人が、どのような思いや経緯で来日されたのか、その後どのように生活をされているのか、JFCの父親に対してどのようなお気持ちを抱いておられるのかを知ることができたからです。

★感想：私は、現在父親探しをしているクライアントとお会いできたのが一番嬉しかったです。在比のJFC案件の場合、実際のクライアントと直接に面会する機会は限られています。意思確認が難しく、事件に携わることが難しいと感じるときもあります。今回は、クライアントと実際に会い、25年近くにわって父親と会えていないにも関わらず、今でも父親に会いたいと強く思っていることを実際に聞くことができました。改めて、一つ一つのJFC案件の大切さ、尊さを痛感した次第です。 (宮内博史さん/弁護士)

◆プログラム：家庭訪問とホームステイ

JFC問題がどういう問題であるかを肌で感じるということがとてもよかったです。私の場合は、ホームビジットでは、17年ぶりに日本人父との連絡が取れたばかりだったミリアムさんのご自宅を訪れたので、比較的稀有なケースなのかもしれませんが、心が温かくなるお話を聞くことができました。ホームステイではエブリンさんのご自宅を訪問して、JFCが国籍を取得することの意味を考えさせられました。

★JFC問題やフィリピンという国の現状を知ることができ、大変勉強になりました。また、JFCネットワークの活動内容も理解し、本当に意義深く、大変な中で20年以上も活動を継続されてきたことに敬服しました。同じツアーに参加された皆様とも貴重な出会いがあり、みなさんとワイワイとできたアイランドホッピングも楽しかったです！忙しかったですが、とても学びの多い、充実したスタディーツアーでした。 (橘高真佐美さん/弁護士)

◆プログラム：ホームステイ

(理由) フィリピンと日本の経済格差について、頭では理解しているつもりでしたが、実際にホームステイをさせていただいて、来日するフィリピン人女性の生活状況、貧困の状態について、1泊の滞在という短い時間でしたが、肌で感じることができました。また、これまで、フィリピン人依頼者の事件を何件も扱ってきましたが、今後、フィリピン人依頼者の事件を

扱うときに、より、バックグラウンドについて理解して、また、依頼者・事件を身近に感じて取り組めるようになるのではないかと思います。とても強いインパクトを受けました。

★感想：私は、JFCを利用した人身取引について、被害者（潜在的な被害者）の実態や、フィリピンで人身取引の問題に取り組んでおられる団体の活動を知ることが目的として参加させていただきましたが、最も強く印象に残ったのは、JFCとその母親たちの日本に対する憧れと来日の願望の強さでした。私は、JFCが日本語もわからないのに、日本国籍を取得して日本に住めるからといって日本に来ることは、その子の最善の利益に適うのかという疑問を持っていたのですが、そういう感じ方自体が上から目線だったのではないかと、彼ら・彼女らは日本国籍者である以上、国籍国に住むことは当然の権利であり、本人がそれを望む以上誰も否定できないという当たり前のことを再認識しました。とはいえ、受入れ体制がない現在の状況でJFCが来日することには、やはり、子どもの人権の観点から様々な問題があります。この点をどう解決していくのが良いのか、真剣に議論し、具体的な対応策を提案し、実現していく必要があると強く感じました。2016年5月は、子どもの権利条約に基づく第4回・第5回日本報告書の提出期限です。JFCの問題を取り上げる良い機会ですので、国連子どもの権利委員会にJFCの問題についてNGOから情報提供していくべきであると考えます。

(大谷美紀子さん／弁護士)

◆プログラム：ホームステイ

(理由)一泊とはいえ、実際の生活を垣間見ることができ、経済状況や生活環境、周囲の人間関係や元夫への気持ち、自身の経験に対する感情などをリアルに感じることであったため。関係性がある程度築けた上で聞ける話や率直な感想に、JFCに関する課題の根深さと複雑さを知れたように思います。それにしても、日本人男性、ブローカーはひどい！

★感想：私は普段、困難を抱える10代の少女をサポートする活動をしています。虐待や貧困を背景に、行き場をなくし、違法な仕事をさせられたり、性的な搾取の被害にあっている子達と多く出会っています。JFCも少なからずいるため、活動の参考にしたいと今回ツアーに参加しました。ツアーに参加し、JFCやお母さんたちと実際に会い、話を聞くことができ、行政や福祉、民間のサポートが行き届かない間に、必要なモノや機会が用意され、取り込まれ搾取されている現状に、強い憤りを感じました。それと同時に、その構造が、日々出会っている女の子たちを取り巻く環境と同じであることにも驚きました。貧困や困難を抱える人たちに、先にアプローチされてしまっている中で何ができるのか、ツアーに参加して以来、頭を巡らせ続けています。

また、文化も制度も違うにも関わらず、現地でお母さんたちと信頼関係を築いているスタッフの姿にとっても感銘を受け、刺激を受けました。暮らしの中で、暮らしとともにサポートをしていくことに本質的な支援のあり方を感じ、自身の活動にも活かしていきたいと思いました。

(稲葉隆久さん／一般社団法人Colabo副代表)

◆プログラム：①カトリック教会移住者委員会とバティスとの協議

②仁藤夢乃さんのお話し

③ホームステイ

(理由) ①協力関係を築き行動を明確化できた。

②路上に出る少女たちの状況を深く理解できた。

③私がホームステイをした12人家族の家族の原動力に感動した。

★感想：①今回見聞きしてきたことでJFCのアドボカシーがより明確になった。

②フィリピンと日本における支援グループのネットワーク化はJFCネットワークを通じて継続される必要がある。

③JFCとその母親たちがより安全な移住ができるような支援が必要だ。

(Leny Tolentino さん/カラカサン・ENCOM<カトリック横浜教区難民移住移動者委員会>)

◆プログラム：マニラでの JFC 人身売買被害の情報交換会

(理由)被害者親子による中学生の子どもも含む当事者の生の被害体験を聞かせてもらえたことが貴重なことでした。

★感想：ダバオでの家庭訪問、ホームステイ、ワークショップ中の JFC との食事、またマニラでの人身売買被害の情報交換会、その他、様々な場面で JFC 親子と直に出会えて話を聞かせてもらえたことが、何よりも有難いことでした。彼ら・彼女たちのフレンドリーな温かいもてなしに感謝！しかし、彼ら・彼女たちを取り巻く問題があまりにも複雑かつ大きすぎて圧倒されそうな思いです。共にこのツアーに参加された弁護士の先生方は法的側面からの支援を目指しておられると思いますが、それでは「自分は何ができるのか?」という問いかけが、今、私の中で大きくなってきています。

また、日本人の夫が自死したという一人の若いお母さんが深刻な顔をして、「なぜ日本人は自ら命を絶つということをするのか? フィリピンでは考えられない。日本人の血を引く息子もいつか自死してしまうのではないか、心配でならない。」と話してくれた時、JFCのお母さんたちの中には、こういう不安や心配を抱えて生きている人がいるのだということに初めて気づかされました。自分が想像もできないところで心の闇を抱えているお母さんがいるのですね。

(下田由子さん/ENCOM YOKOHAMA<カトリック横浜教区難民移住移動者委員会>)

◆プログラム：ホームステイ

(理由)JFC母子と彼らの生活をリアルに見ることができたから。ニュースレターなどの文字媒体だけでは伝わりきれない情報をたくさん得ることができたので。

★感想：ホーム・ビジットとホームステイ先で見聞きしたあれこれ。例えば、JFCが母親で似ていないとても日本人顔なので、フィリピンで生きていく上で苦勞するのかなと思ったこと。

ホームステイ先ではJFCの父からももらったぬいぐるみがあるまま埃をかぶり、建ててもらった家の壁はあちこちがはがれているのを見ました。フィリピン人の母とJFCにとって、日本人の父の存在は否が応でも毎日身近に感じるものなんだと実感しました。

(斉藤忍さん/JFCネットワーク東京事務所スタッフ)

◆プログラム：カトリック教会移住者委員会でのワークショップ

(理由) このミーティングで行われた、実際の人身売買の被害者の話が、非常に生々しく、印象深かった。このような具体的な被害の事例を多く集めることと、被害の具体的な内容を広く知らせること、それに被害者の救済の手法について考えていく必要があると感じた。

★感想：ツアーの企画内容もさることながら、参加したメンバーが多士済々で、皆さんの話は大変興味深かった。ツアーの本来の趣旨ではないが、このメンバーでいろいろなテーマについてディスカッションしたら、とてもおもしろいのではないかと感じた。

(近藤博徳さん/弁護士/JFCネットワーク理事)